

本日は「労（いた）わる」という話をさせていただきます。

人は1人で生まれてきたわけではありません。1人になりたいと思うことがあっても、私たちは社会の中で生きていくわけであって、そこから逃げるということはできないのです。私たちは、誰かのおかげで存在しているという当たり前のことをしっかりと心に置いて、人に対してどう向き合うかを考えなければいけません。そのことがわからないと、人に対して優しく労わるということとはできません。

今年、霊界からいただいた指針の中で「他者を思いなさい」といただきました。もしかすると私たちは、他者を思うのではなく、他者に対して障害を与えているかもしれません。また、今回の大きな地震に対しても、テレビ、ネットで大変だと思っけていても本当に心を寄せていたのだろうか。本当にその人たちに対して、同じような気持ちを持っていたのだろうかと思います。

しかし、これは難しいことで、やはり人よりも自分のことの方が大切になる、先になってしまいます。これも我々の持っている業であります。だからこそ、妙智會は祈願をしましうと申し上げています。少しでも被災地の皆さんのことを思って頂きたいという、その根底の願いがあってさせて頂いているのです。

仏教もキリスト教も、全ての宗教の根幹は「弱者救済」です。弱い人たちを助け、労わる。これが我々の信仰・宗教の根幹にあるのです。それなくして宗教も信仰も生まれてこないと思います。弱者を救うために、祈りを捧げ、行いをするという、大きな元を忘れてはなりません。そして、その時の一番の弱者を感じる大切

です。例えば家族の中で、一番つらい思いをしているのは誰なのか、弱い立場は誰なのかと思うことが大切です。

我々は、信仰を持っています。妙智の教え、会主さまの教えをいただいています。しかしなぜいただいてるんだらうか。それを持ってどうするのか。それは、労わる心をつくるためです。

この前、車いすの方が道路の溝にはまっているのを見つけ、私は駆け出して「大丈夫ですか」と声をかけました。私が車いすを持とうとすると周りの方たちが集まってきました。しかし、私が声をかけるまで、誰も手を貸そうとしてなかったのです。

これは大事なことで「労わる心」というのは誰か 1 人がやらないと伝わっていかないのですね。誰かがやるとみんなが手を差し出す。それでもいいと思います。

それならば、妙智會の私たちは、一番始めに手を差し伸べる人たちになりたいと思いました。それが妙智會だと思いました。これが導きの元であり、慈悲の元だと思いました。私は今年からそういう人々を作っていきたいと思います。

一番怖いのは無視です。マザー・テレサもそうおっしゃってました。信仰の敵は無視であります。

今年は様々なことが起きます。もう既に起きてます。私は以前「軸をしっかりしてれば大丈夫ですよ」と指導しました。労わる心こそ、慈悲の心こそ、その自分の軸を強く太く、地面に突き刺すことができるのです。自分勝手であつたら、軸は弱いものになります。多事多難な本年こそ、労わる心を作る。弱者を守る。真っ先に手を差し伸べる。そういう行いをしていただきたいと強く願います。そうすれば、天災も人災も私は解決できると、強く信じています。